

# 教育哲学会 第54回大会プログラム

2011年10月15日(土)・16日(日)

上越教育大学



## 日程概要

### 第1日 10月15日(土)

9:30	受付
10:00~12:30	一般研究発表(人205~人207)
12:30~13:30	昼食・休憩
	全国編集委員会(人113)
	研究討議打ち合わせ(人208)
13:30~16:30	研究討議(講301)
16:45~17:45	総会(講301)
18:00~20:00	懇親会(大学学生食堂)

### 第2日目 10月16日(日)

9:00	受付
9:30~12:00	一般研究発表(人205~人207)
12:00~13:00	昼食・休憩
	課題研究打ち合わせ(人208)
13:00~15:45	課題研究(講301)
16:00~18:00	ラウンドテーブル(人205、人206)

### 大会前日 10月14日(金)

16:00~18:30	全国理事会(直江津学びの交流館)
-------------	------------------

## 参加要領

- 受付 人文棟1階 ホール
- 大会参加費 3,000円(学生2,000円)
- 懇親会費 5,000円(学生3,000円)
- 一般研究発表 発表20分/質疑応答5分

※ 万一欠席する場合、発表者は速やかに大会準備委員会にご連絡ください。  
なお、欠席の場合、時間の繰り上げは行いません。

## 第1日 10月15日(土)

### 第1部会

#### 人文棟・人205

司会：上原 秀一（宇都宮大学） 室井 麗子（岩手大学）

- ◆10:00 J.-J.ルソーにおける人間と市民の連関についての一試論  
佐藤 安功（仙台高等専門学校）
- ◆10:25 ルソーにおける関心の概念  
寺崎 恵子（聖学院大学）
- ◆10:50 J.F.Oberlin（オベリン）の教育実践とその理念  
－実物教育を中心に－  
海津 淳（桜美林大学）
- ◆11:15 境界と変容可能性  
－フーコーのパレーシア論を手がかりとして－  
舟木 祐人（京都大学大学院・院生）
- ◆11:40 ジョルジュ・バタイユにおける「欲望」の教育学的含意  
田口 賢太郎（東京大学大学院・院生）
- ◆12:05 全体討議（～12:30）

### 第2部会

#### 人文棟・人206

司会：奥野 佐矢子（下関市立大学） 松下 晴彦（名古屋大学）

- ◆10:00 G.H.ミードの教育論における意義に関する一考察  
岡村 健太（早稲田大学大学院・院生）
- ◆10:25 シティズンシップ教育とプレカリアスな生  
山口 恭平（東京大学大学院・院生）
- ◆10:50 リュス・イリガライの差異の倫理学における承認の概念：  
教えることへの示唆  
虎岩 朋加（名古屋大学）
- ◆11:15 「大人 - 子ども」区分の正当化に関する一考察  
－チャイルド・パターンリズム論の一展開として－  
帖佐 尚人（早稲田大学大学院・院生）
- ◆11:40 「非同一性問題」とその教育哲学的含意  
太田 明（玉川大学）
- ◆12:05 全体討議（～12:30）

# 第1日 10月15日(土)

## 第3部会

### 人文棟・人207

司会：笹田 博通（東北大学） 菱刈 晃夫（国士舘大学）

- ◆10:00 縁起の思想から見たケアの関係性  
坂井 祐円（京都大学大学院・院生）
- ◆10:25 悪人成仏の論理  
—善知識としての提婆達多に着目して  
岩瀬 真寿美（名古屋産業大学）
- ◆10:50 公立学校の「道德」に表れる「崇高なもの」についての考察  
中橋 和昭（白山市立千代野小学校／兵庫教育大学連合大学院・院生）
- ◆11:15 精神と言葉の結び目としての「接触」  
—M. ブーバーのヘブライ的存在の地平から—  
グエンティ ホンハウ（京都大学大学院・院生）
- ◆11:40 自我の超越的発達  
北畠 知量（同朋大学）
- ◆12:05 全体討議（～12:30）

- ◆12:30～13:30 昼食・休憩  
全国編集委員会  
人文棟・人113

- ◆13:30～16:30 研究討議（開催校企画）  
教育における正義とケア  
講義棟・講301

司会： 林 泰成（上越教育大学）  
中野 啓明（新潟青陵大学）  
提案者： 生田久美子（田園調布学園大学）  
片山 勝茂（東京大学）  
伊藤 博美（名古屋経済大学）  
指定討論者： 広岡 義之（兵庫大学）

- ◆16:45～17:45 総会  
講義棟・講301

- ◆18:00～20:00 懇親会  
大学学生食堂

## 第2日 10月16日(日)

### 第1部会

#### 人文棟・人205

司会：伊藤 敏子（三重大学） 齋藤 直子（京都大学）

- ◆ 9:30 西田哲学の「行為的直観」にみる身体解釈の一視点  
—「体ほぐし」の教育的意義への論理根拠として—  
山口 裕貴（桜美林大学）
- ◆ 9:55 アンスコム行為論の徳倫理学的特質とその教育学的含意  
山口 裕毅（広島大学大学院・院生）
- ◆ 10:20 沈黙の芸術としての哲学  
——メルロ＝ポンティ芸術論にみる身体表現——  
奥井 遼（京都大学大学院・院生）
- ◆ 10:45 アシスティブ・テクノロジー時代における特別支援教育について  
—W.ベンヤミン「複製技術の時代における芸術作品」を手がかりに—  
村上美奈子（立正大学・非常勤講師）
- ◆ 11:10 ブルーナーの「文化心理学」における「ナラティヴ」と「文化」  
—ブルーナーのヴィゴツキー批判に着目して—  
嶋口 裕基（早稲田大学大学院・院生）
- ◆ 11:35 全体討議（～12:00）

### 第2部会

#### 人文棟・人206

司会：岡部 美香（京都教育大学） 下司 晶（日本大学）

- ◆ 9:30 宮坂哲文の学習観と学習集団論  
—戦後日本における学習集団論展開の一側面—  
間篠 剛留（慶応義塾大学大学院・院生）
- ◆ 9:55 『トム＝ブラウンの学校生活』におけるパブリックスクール・ラグビー校の  
組織的競技にみる無私と公の精神性  
土屋 靖明（八戸大学）
- ◆ 10:20 子どものセンス・オブ・ワンダー  
—対象の内側に入り込む認識  
藤井 奈津子（梅花女子大学）
- ◆ 10:45 絵本と子どもの人間形成論  
久保田 健一郎（大阪国際大学短期大学部）
- ◆ 11:10 ハイデガー哲学における教育人間学の可能性  
田端 健人（宮城教育大学）
- ◆ 11:35 全体討議（～12:00）

## 第2日 10月16日(日)

### 第3部会

#### 人文棟・人207

司会：小渕 朝男（二松学舎大学） 山口 匡（愛知教育大学）

- ◆ 9:30 カントの「物自体」の概念とその教育学的位置づけ  
鈴木 宏（上智大学大学院・院生）
- ◆ 9:55 人間はいつ「自由」になるのか？  
——ヘルバルトの啓蒙論——  
小山 裕樹（東京大学大学院・院生）
- ◆ 10:20 「自由」の再定義  
寺崎 賢一（滑川市立早月中学校）
- ◆ 10:45 J. S. ミルの功利主義と教育目的論  
——「生の技術」の三部門からの考察——  
高宮 正貴（聖母大学・非常勤講師）
- ◆ 11:10 全体討議（～11:35）

- ◆ 12:00～13:00 昼食・休憩

- ◆ 13:00～15:45 課題研究（学会理事会企画） **講義棟・講301**  
教育はどのように問われるべきか

司会： 森田 尚人（中央大学）  
藤川 信夫（大阪大学）  
提案者： 今井 康雄（東京大学）  
松浦 良充（慶應義塾大学）  
矢野 智司（京都大学）  
指定討論者： 綾井 桜子（十文字学園女子大学）  
生澤 繁樹（上越教育大学）

- ◆ 16:00～18:00 ラウンドテーブル  
1 思想課題としてのデルタイ **人文棟・人205**  
—その批判的継承と展開！没後100年忌に寄せて—  
企画者：齋藤 智志（郡山女子大学）・舟山 俊明（慶應義塾大学）  
2 3. 11以後の教育哲学 **人文棟・人206**  
—その批判的継承と展開！没後100年忌に寄せて—  
企画者：加藤 守通（上智大学）・森田 伸子（日本女子大学）

## 研究討議

第1日目 13:30~16:30

講義棟・講301

### 教育における正義とケア

司 会：林 泰成（上越教育大学）  
中野 啓明（新潟青陵大学）  
提 案 者：生田久美子（田園調布学園大学）  
片山 勝茂（東京大学）  
伊藤 博美（名古屋経済大学）  
指定討論者：広岡 義之（兵庫大学）

キャロル・ギリガンが著書『もうひとつの声』においてケアの倫理の観点から正義の倫理を批判して以来、正義とケアは、さまざまな領域で、ときには対立する概念として、ときには相補的なものとして議論されてきた。しかし、いまだに、両者の関係については共通理解が成立しているとは言い難い。そこで、この2つの概念を、教育の文脈に限定して再検討することが本研究課題の目的である。

議論が拡散しないように、提案者の方々には、少なくとも以下の3点について取り上げていただきたいと考えている。

まず、①原理的なレベルで、教育における正義の概念とケアの概念のかかわりを明らかにしていただきたい。ついで、もう少し的を絞って、②道德教育との関連において、両者のかかわりを検討していただきたい。ギリガンは、前掲書の中で、具体的な事例を挙げながら、コールバーグの道德性発達論の批判を展開している。また、『ケアリング』を著したノディングズも、ケアの観点から道德教育の方法を提案している。はたしてそうした観点からの道德教育が意味を有するのかどうかを吟味していただきたい。最後に、性差の問題としても語られることのある、正義とケアの対立は、見方を変えれば文化差のようにも見えるが、③はたして日本文化はケア的なのだろうかということについても言及していただきたい。

こうした議論をとおして、正義とケアをめぐる議論の、教育哲学研究の中で有する意味が、明らかにされることを期待したい。

## 課題研究

第2日目 13:00~15:45

講義棟・講301

### 教育はどのように問われるべきか

司 会：森田 尚人（中央大学）  
藤川 信夫（大阪大学）  
提 案 者：今井 康雄（東京大学）  
松浦 良充（慶應義塾大学）  
矢野 智司（京都大学）  
指定討論者：綾井 桜子（十文字学園女子大学）  
生澤 繁樹（上越教育大学）

理事会での討議の結果、課題研究は今後3年間を通じたテーマとして「これまでの教育哲学、これからの教育学」として設定し、教育哲学の基本・基礎を確認することを目標にすることが決定された。今回はその最初の年にあたり、「教育」概念の定義の問題を軸に課題研究を企画することになった。しかし、「教育」概念の定義というテーマは、これまでもシンポジウムで議論されてきたことでもあり、今回は「教育とは何か」ではなく、この問い自体をも問いにふす「教育はどのように問われるべきか」というより動的で主体的な問いかけを通して、このテーマに向かいあうことにした。本研究課題では「教育はどのように問われてきたか」という歴史的反省を踏まえつつ、かつ今日の教育と教育哲学の課題に応え、未来に向けての教育哲学の問いの在り方を探究する。この課題に応えるため、それぞれの発表者が具体的な主題を取りあげ、次の3つのアプローチに別れて考察する。①歴史的な教育思想史の流れを押さえることで問い方を練りあげ、今日の教育と教育哲学の課題を批判的に解明するアプローチ、②教育概念を福祉や労働といった関連する他の諸領域との関係のなかでどのように問うべきかを考察するアプローチ、③新たな哲学や思想の動向とかかわりながら教育という事象の特異性をどのように切り出すかその問いの在り方を考察するアプローチ。この探究は、教育哲学の学問論についての考察とこれまでの教育概念の総括という側面を含むことになるだろう。

## ラウンドテーブル

1 ラウンドテーブル1

第2日目 16:00~18:00

人文棟・人205

### 思想課題としてのデイルタイ

—その批判的継承と展開！没後100年忌に寄せて—

企画者：齋藤 智志（郡山女子大学） 舟山 俊明（慶応義塾大学）

提案者：瀬戸口昌也（別府大学） 走井 洋一（東京家政大学）

齋藤 智志（郡山女子大学）

我が国におけるデイルタイ哲学の本格的受容は、大正期に入ってからのものであった。この背景には、デイルタイ没後に刊行が開始されたドイツ語版「全集」の刊行があり、この進捗状況に見合った受容であったと考えられる。しかし、教育学の世界ではデイルタイ自体を対象とする研究というよりも、いわゆる「デイルタイ派」の教育学者たちに関心が寄せられ、哲学世界ではその後、新カント学派や現象学の紹介や研究へと転換したと見ても良い。デイルタイ哲学は彼らの先駆的位置を与えられながらも、彼の「歴史的理性批判」の考え方や「解釈学」を中軸に据えた精神科学論のその後の展開は、周知のように、大いなる受容とともに多くの批判を、たとえば心理主義、歴史的相対主義ないしは実証主義的客観主義であるとか、さらには彼の言う精神科学は現実の隠蔽であって保守的イデオロギーの学問的言説化であるとかいった批判を惹起してきた。こうした批判を充分に射程に入れた上で、今日デイルタイ哲学研究に意義があるとすれば、それはいかなるものでありうるのかを考究することが上記テーマの設定理由である。瀬戸口は、「精神諸科学の基礎づけの例」としてのデイルタイ教育学というテーマで、教育学理論史の中では既に古典的位置づけを得ているデイルタイ教育学を、心理学と倫理学との関係からだけでなく、解釈学と論理学、美学等の観点も含めた検討を行う。走井は、人間形成における非連続的契機をいかに乗り越えるのかをデイルタイの Wirkungs Zusammenhang 概念を中心に報告し、デイルタイ哲学の教育学的思惟上の意義を取り扱う。齋藤は、これまで我が国のみならずドイツ本国の哲学や教育学世界においても十分には取り上げてこられなかった、そしてデイルタイ研究にとっては極めて難題と思える「デイル

## ラウンドテーブル

タイの宗教哲学的考察」について報告する。舟山は「19/20世紀学問史的展開におけるディルタイ」について報告する。

このラウンドテーブルでは、没後100年忌を機にして、以上の報告を手がかりに総じて「今日におけるディルタイ哲学の批判的継承の可能性を探る」試みとなるであろうと思われる。

### 2 ラウンドテーブル2

第2日目 16:00~18:00

人文棟・人206

### 3. 11以後の教育哲学

企画者：加藤 守通（上智大学）

森田 伸子（日本女子大学）

提案者：馬上 美知（東日本国際大学）

矢田 訓子（茨城大学・非常勤講師）

今年3月11日の大震災およびいまも続いている（原発事故を中心とする）二次災害は、我が国と世界に大きな衝撃をもたらした。それは、経済的・政治的次元を越えて、われわれの存在そのものを大きく揺さぶっている。科学技術を信頼し、自然を操作し、効率性を追求する、近代以降の生き方そのものが問われている。

いま教育哲学にできることは、この衝撃を真摯に受け止め、それに応答できるような問いを提起することではなからうか。

もっとも、このような取り組みは、即効薬を必要とする現実の逼迫した状況を前にして、あまりに迂遠なものと思われるかもしれない。しかし、歴史的な転換となりうるようなこの事件をより深い位相において捉える試みは、長いスパンで考えたとき、重要な意味を持ちうるだろう。

当日は、企画者と提題者がそれぞれ15分程度話をし、その後は3.11以後の教育哲学の課題について会員諸氏と自由に語り合いたい。

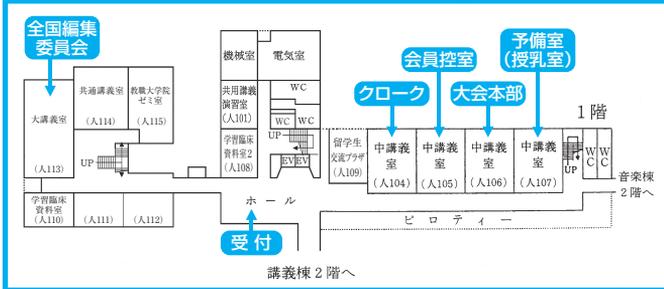


# 上越教育大学 大会会場

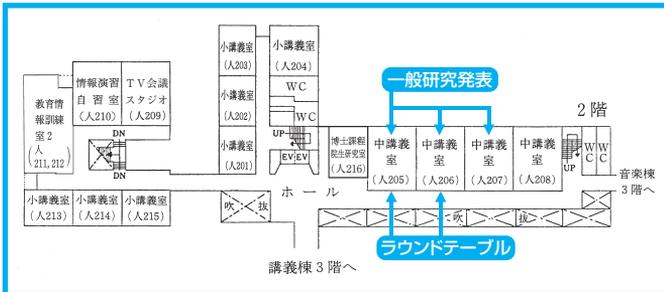
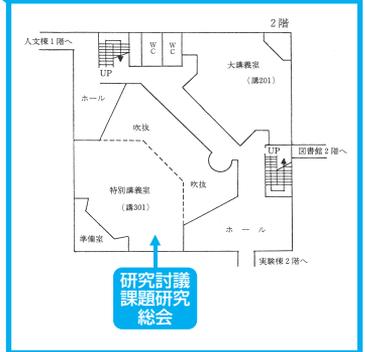
自動車でお越しの際は、大学構内の学生駐車場をご利用ください。



## 人文棟 1階・2階案内図



## 講義棟 2階案内図



## 上越教育大学へのアクセス



- JR直江津駅から／  
 直江津駅前からタクシー乗車（約10分）  
 直江津駅前から頸城バス教育大学線乗車（約20分）、教育大学下車
- JR高田駅から／  
 高田駅前からタクシー乗車（約10分）  
 高田駅近くの本町六丁目から頸城バス教育大学線乗車（約15分）、教育大学下車

## 直江津学びの交流館(全国理事会会場)へのアクセス

直江津学びの交流館（直江津図書館） 〒942-0001 上越市中央一丁目3番18号 Tel：025-543-2859



直江津学びの交流館  
(全国理事会会場)

JR直江津駅から／  
 駅北口から徒歩3分



## | 教育哲学会第54回大会 |

教育哲学会第54回大会準備委員会

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学学校教育学系生澤研究室

E-mail : kyoutetsu54@gmail.com